

# MY COLOR

Vol.16

きらっと\*とよかわっ! 輝くひと

さまざまな分野で活躍する豊川市出身のトップランナーを紹介します

## 読者と真剣に向き合い 面白い絵本を描き続けたい

〈絵本作家〉壁谷 芙扶さん



アトリエで絵本の創作活動をする壁谷さん。現在まで20作以上の絵本を手掛けている。

小さい頃から絵を描くことが大好きだったという壁谷さん。親戚のおばさんに「絵が上手だから、絵を描く仕事をしたらい」と言われたことがずっと心に残り、将来は絵の仕事をしようと、美術系の短大に進んだ。

卒業後、地元では希望にかなう絵の仕事が無かったため、やむなく服飾関係の会社に就職した。5年が過ぎた頃、やはり絵の仕事を諦めきれず、仕事の傍らイラストレーターの学校に通い始めるも、その矢先に、会社をリストラ。これを機に、自宅で精力的に絵を描く日々を過ごした。そして、憧れだった子ども向けファッション誌「VOGUE bambini」(ヴォーグ・バンビーニ)に当たって碎けるの精神で絵を送ったと

ころ、まさかの採用。念願だったイラストレーターとしての仕事が始まった。

その後、両親の後押しもあり、本格的に絵の仕事をするため上京を果たすものの、仕事の当てがあるわけではなかった。ひたすら出版社に絵を売り込む中で、「絵を描くためには、どんなことでも体験したほうがよい」という先輩からのアドバイスもあり、何でも前向きに取り組んだ。この結果、少しずつ仕事の依頼が増え、大手スーパターの広告デザイナーを任されるまでになる。しかし、「実力不足だった」というように、相手の高度な要望に応えることができず、気が付くと仕事がまったく無くなっていった。

そんな折、展覧会の作品を見た出版社から絵本の依頼を受ける。全力で取り組んだデビュー作が、国際的な絵本原画展で入選し、名前が知られることとなった。



### 壁谷 芙扶 (かべや ふよう)

国府保育園、国府小、西部中、光ヶ丘女子高校、名古屋造形芸術短期大学を卒業。民間企業を経てイラストレーターとして独立。処女作「だったらいいな」がポローニャ国際絵本原画展で入賞。2016年には国府保育園を舞台に絵を描いた「へそのかくれが」(文:中西 翠、出版社:アリス館)を出版

頼を受ける。全力で取り組んだデビュー作が、国際的な絵本原画展で入選し、名前が知られることとなった。

絵本作家となり数年が経った頃、ベテラン編集者から「君は本を買ってもらおうということが分かっていない」とプロ意識の甘さを指摘された。このことで、絵本を作ることに責任を強く感じるようになったという。「読者と誠心誠意向き合うことをたいせつにし、自分が面白いと思う作品を作っていきたい」と思いを込める。

「将来は、豊川にアトリエを建てて、子どもの頃の出来事を題材にした絵本を送りたい」と語る壁谷さん。これからも、楽しい絵本を送り出してくれる彼女を応援したい。